



エコアクション21
認証番号0008443



SHIRASAGI[®]

環境経営レポート

2022

白鷺電気工業株式会社

発行：2023年8月31日

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

SHIRASAGI®



CONTENTS



..... Plan

会社概要と白鷺電気工業の歩み _____ P2

TOP MESSAGE _____ P6

企業理念/Vision80/環境経営計画・目標 _____ P7

..... Do

実施体制 _____ P9

..... Check

取組実績と評価 _____ P11

二酸化炭素排出量 / ガソリン使用量の削減

電気使用量の削減

水使用量の削減、産業廃棄物排出量の削減

これまでの主な活動実績 _____ P17

本業を深め、広げる / 働き方改革を実現する / さらに地域とともに歩む

・環境目標、環境活動計画 3ヵ年

・環境関連法規への確認及び評価、違反・訴訟

..... Action

代表者による全体評価と見直し _____ P24



会社概要

事業者名

白鷺電気工業株式会社

代表者

代表取締役社長 沼田 幸広

所在地

〒861-8035 熊本県熊本市東区御領8丁目3番38号



八代支社

八代市宮地町1680

福岡支社

福岡市博多区博多駅中央街8-1JRJP博多ビル3F

京都支社

京都市右京区梅津南広町6-1 エスパシオ梅津

人吉営業所

人吉市願成寺町1343-1

鹿児島営業所

鹿児島市西千石町11-21 鹿児島MSビル6階

しらさぎエナジー株式会社 上益城郡益城町小谷2224-8

資本金

1億円

創業

1947年2月

事業内容

電気工事業、土木工事業、とび・土木工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、
水道施設工事業、管工事業、電気通信工事業、消防施設工事業、機械器具
設置工事業

認可・許可

特定建設業 国土交通大臣許可第18899号

電気工事業、土木工事業、とび・土木工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、
水道施設工事業

一般建設業 国土交通大臣許可第18899号

管工事業、電気通信工事業、消防施設工事業、機械器具設置工事業

審査・登録

建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS)、建設業労働
災害防止協会、エコアクション21(持続性推進機構)

編集方針

〈認証・登録範囲〉	本社・八代支社・福岡支社・京都支社・人吉営業所・鹿児島営業所・しらさぎエナジー株式会社		
〈報告対象期間〉	2022年4月1日～2023年3月31日		
〈環境管理責任者〉	東 光明	〈発行日〉	2023年8月31日
〈参考ガイドライン〉	「エコアクション21建設業向けガイドライン2017年版」 「すべての企業が持続的に発展するために-持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド-」		
〈お問い合わせ先〉	白鷺電気工業株式会社 / 担当 三村 〒861-8035 熊本県熊本市東区御領8丁目3-38 TEL(096-380-7171) FAX (096-380-7140) https://www.shirasagidenki.co.jp		



でんきで広がる楽しい地球。



■SEESが支える地域の暮らし

総合技術商品である「しらさぎ 電気エネルギー総合システム(SEES)」は、これまで培ってきた発電電・送電工事の技術を基盤に、電気設備の新設・補修工事や太陽光・風力発電等の新電気エネルギー導入のご提案、経済環境には不可欠な省エネルギー・省コストの実現、さらに快適なオール電化のご提案、ビルや事業所の保守・メンテナンスを行い、皆さまの暮らしと産業をサポートする体制を構築していきます。

■電力プラント事業

- ・九州電力ほかの発電電所新設、修繕工事
- ・九州電力ほかの送電設備新設、修繕工事及び調査測量
- ・電灯、動力設備工事

■情報通信設備サービス事業

- ・情報通信網(光ケーブル)新設、補修工事
- ・WAN、LAN工事
- ・信号機工事
- ・BBIQ回線提供工事

■新電気エネルギー事業

- ・太陽光発電システム
- ・小型風力発電システム
- ・小型水力発電システム
- ・環境保全型施設の設計、施工

■快適電化サポート事業

- ・太陽光発電
- ・電気温水器
- ・エコキュート
- ・IHクッキングヒーター

■省エネ・省コストサポート事業

- ・電力環境改善サポート
- ・UPS(無停電電源装置)
- ・空調設備 ・照明器具
- ・ピーク負荷抑制装置
- ・自家発電機設置工事

■でんでんメンテサービス事業

- ・事業所用高圧受変電設備保守、点検業務
- ・オール電化商品保守、点検業務
- ・守衛等警備業務
- ・建築設備の総合管理



会社沿革

- 1947. 2 八代市萩原町に(有)白鷺電気工業所を創業
- 1977. 3 鹿児島営業所開設
- 1987. 4 人吉営業所を開設
- 1988. 7 福岡営業所を開設

2009.12 電気自動車 i-MiEV 導入

2011. 3 電気自動車用急速充電器設置

2012. 4 京都支社を開設



メガソーラーしらさぎ高遊パーク

2013. 3 「しらさぎエネジー(株)」設立
「メガソーラーしらさぎ高遊パーク
発電所」 竣工

2015. 2 白鷺電気工業の100%持株会社として
「しらさぎ」ホールディングス(株) 設立

2017. 2 創立70周年

2017. 4 しらさぎファーム(株)が「農業所有適格
法人」として活動開始

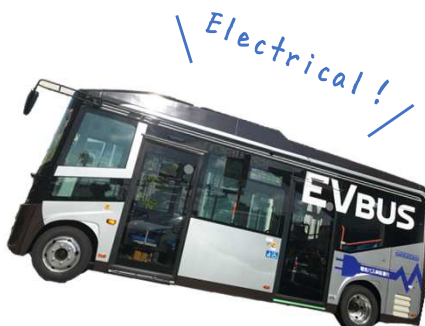
2018. 2 新社屋竣工、本社移転

2019.12 EVバスプロジェクト 実証運行スタート

2022. 3 西日本初ZEH-M Ready仕様の省エネ
最先端の社員寮完成



社員寮



EVバス



しらさぎファーム(株)

エコアクション・環境経営レポート歴史

賞を受賞した歴代の
環境経営レポートの
一部を紹介！

2015.12 発行
第9回「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞
第20回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



2012.6 「エコアクション21」認証

2012.7 環境経営レポート 初刊発行

2019.11 発行
第24回
「環境コミュニケーション大賞」
優秀賞 受賞



2015.12 環境経営レポート発行
「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞

2017. 5 環境経営レポート発行
「環境活動レポート大賞・九州」
大賞 受賞



2021.8 環境経営レポート発行
「環境活動レポート大賞・九州」受賞



NPO法人しらさぎとSDGs活動の歴史

- 1998. 7 特別養護老人ホームやすらぎ荘清掃奉仕活動からスタート
- 1999. 8 八代城跡の清掃奉仕活動をスタート
- 2004. 7 熊本城の清掃奉仕活動をスタート
- 2007.11 NPO法人 しらさぎ 設立
- 2008. 4 第1回阿蘇西原村植林活動をスタート
- 2010.12 阿蘇西原村下草刈りスタート
- 2016. 7 熊本市江津湖で清掃奉仕活動を実施

表 彰

- 2012 第21回くまもと環境賞「奨励賞」
- 2014 第23回 // 「くまもとストップ温暖化賞」
- 2015 環境大臣表彰 地域環境美化功労者 受賞
- 2015 「肥後の水とみどりの愛護賞」受賞



熊本城清掃活動



八代城跡清掃活動

- 2022. 9 第2回熊本市江津湖清掃奉仕活動
- 2022.10 第22回八代城跡清掃活動実施
- 2022.11 西原村灰床地区植林活動実施

白鷺で一番最初に作った

SDGs社内ポスター！

SDGsの読み方から
スタートしました。
以前はまだ世間にあまり
知られていなかったで、
まず言葉を知ることから
はじめました。



- 2018.12 年末のイベントで『3010運動』を実施
- 2019. 5 就労支援施設と協力し、オリジナルのSDGs木製バッジ作製を開始
- 2019. 7 社員旅行の夕食時に『3010運動』を実施

- 2019.10 全社員対象 eラーニングでSDGs学習を開始

- 2020.10 地元の高校生にSDGsの取組みを伝える



- 2021. 3 お取引先様と協力し、地元の小学校へのメダカ寄贈
絶滅危惧種の『ニホン メダカ』を飼育

- 2021. 5 『ニホンメダカ』を地元の小学校へ寄贈

- 2021. 8 熊本県SDGs登録事業者『第1期』登録
『パートナーシップ構築宣言』を公表

- 2021.10 第1回フードドライブ実施



高校生に向けた校外学習の様子



【3010運動】オリジナルポスター



地元就労支援施設での木製バッジ作製時の様子



「SDGs経営で六方よし」

白鷺電気工業株式会社は、昭和22年2月に有限会社白鷺電気工業所として創業いたしました。以来、電気工事会社として安全で安定した電気をお客様にお届けすることを通して、熊本を中心に電気エネルギーの「暮らしと産業の礎」を拓いてまいりました。

■「グローバル時代」に向けて

近年は、地球規模の広い視野を持ちながら、地域に根差した視点で行動するという考え方に基づいたグローバルとローカルを掛け合わせた『グローバル時代』の到来と言われております。熊本は今、半導体関連企業の集積により、交通・住宅などの社会インフラ整備が計画されており、まさにターニングポイントを迎えています。熊本に育てられた企業としてできることに真摯に向き合い、グローバル人材となるための変化を選択し、これまで「ライフラインを守り、築くこと」で培ってきた技術を活かしながら、新たな時代でも「地域と共に歩む白鷺電気工業」であり続けたいと思います。

■2050年の子どもたちのために

また今年で3年目となる「両利きの経営」で、既存事業の更なる『深化』と新たな『探索』のバランスを取りながら両者を高いレベルで行い、更に未来を切り拓いていきたいと考えております。

そのほかにも、私たちの知見を活かした『カーボンニュートラル計画』を段階的に着手していくことを宣言し、新たな時代に向けた一步を着実に進めてまいります。

また、外国人採用や男性育児休業取得の促進など、これからの時代に向けて社内のダイバーシティの推進も積極的に行っています。人を大切にし、育てる企業として、また「2050年の子どもたちのために 熊本から未来を変える。」の実現のため、白鷺電気工業Vision80を更に進展させ、SDGs経営で『六方よし』を続けてまいります。



企業理念

企業使命感

くらしと産業の礎をひらくパートナーシステムの白鷺電気工業

存続6ヶ条

- | | |
|---------|---|
| 1. 安全 | 私たちは作業環境の整備を図り、災害ゼロの明るい職場をつくります。 |
| 2. 協調 | 私たちは相互信頼の精神に立ち、常に相手の立場で考え行動します。 |
| 3. 技術 | 私たちはいかなる要望にも即応できる技術としくみを開発します。 |
| 4. 啓発 | 私たちは常に前進を忘れず、昨日よりも今日、今日よりも明日と自分をみがきます。 |
| 5. システム | 私たちは受注から完成、アフターサービスまでよきチームワークでムダ、ムラ、ムリのない相互協力を行います。 |
| 6. 業績 | 私たちはよい仕事を安く、早く、きれいに仕上げることで信用・業績を高めます。 |

環境経営方針

制定 2011年12月1日 改訂 2019年 7月1日

【基本理念】

白鷺電気工業は、「企業使命感」及び「存続6ヶ条」に基づき、国際社会の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」を考慮した事業活動を行い、社会・経済の発展と地球環境保全に貢献していくとともに、地球上の誰一人として取り残さない(Leave no one behind)ことを理念としてSDGs達成に向けた活動に積極的に取り組みます。

【行動方針】

環境に配慮した事業の推進

事業活動における環境への影響を低減させるため、環境への配慮を行うための目標を明らかにするとともに、これに基づく取組をPDCAサイクルの繰り返しにより継続的な改善に取り組めます。

法規等の遵守

事業活動に関係する品質・環境関連法規制、条例、協定及びその他合意した事項を遵守します。

啓発活動の推進

環境教育、環境社会貢献活動などを通して本方針を周知するとともに、社員の環境保全の意識の向上を図り、地域の環境保護活動に積極的に貢献します。

コミュニケーションの推進

社内外のステークホルダーとの積極的な環境コミュニケーションを進め、相互協力に努めます。

SDGs(Sustainable Development Goals)への取組み

「知る」から「行動する」、そして「貢献する」へとSDGsに対する取組みに注力します。

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田幸広

「本業を深め広げる」

人材育成・技術継承を
行い、多能工化し、
培った既存の技術で
新規顧客の開拓を行う

「社内起業を促進する」

社内の各部で検討し、
(困っている・あったらいい
な・もったいないなど)
身近な所から洗出し、
新規事業等の提案を行う

Vision80とは？

白鷺電気工業80周年に
向けた事業展開の
すべての指針。そのための
骨格となる4つの柱

「働き方改革を実現する」

有給取得率をアップして、
働きやすい職場を目指す

「さらに地域と共に歩む」

ボランティアに積極的に参
加して、さらに地域に根ざ
し、地域に愛される
企業をめざす

環境経営目標

対象期間／2022.4～2023.3

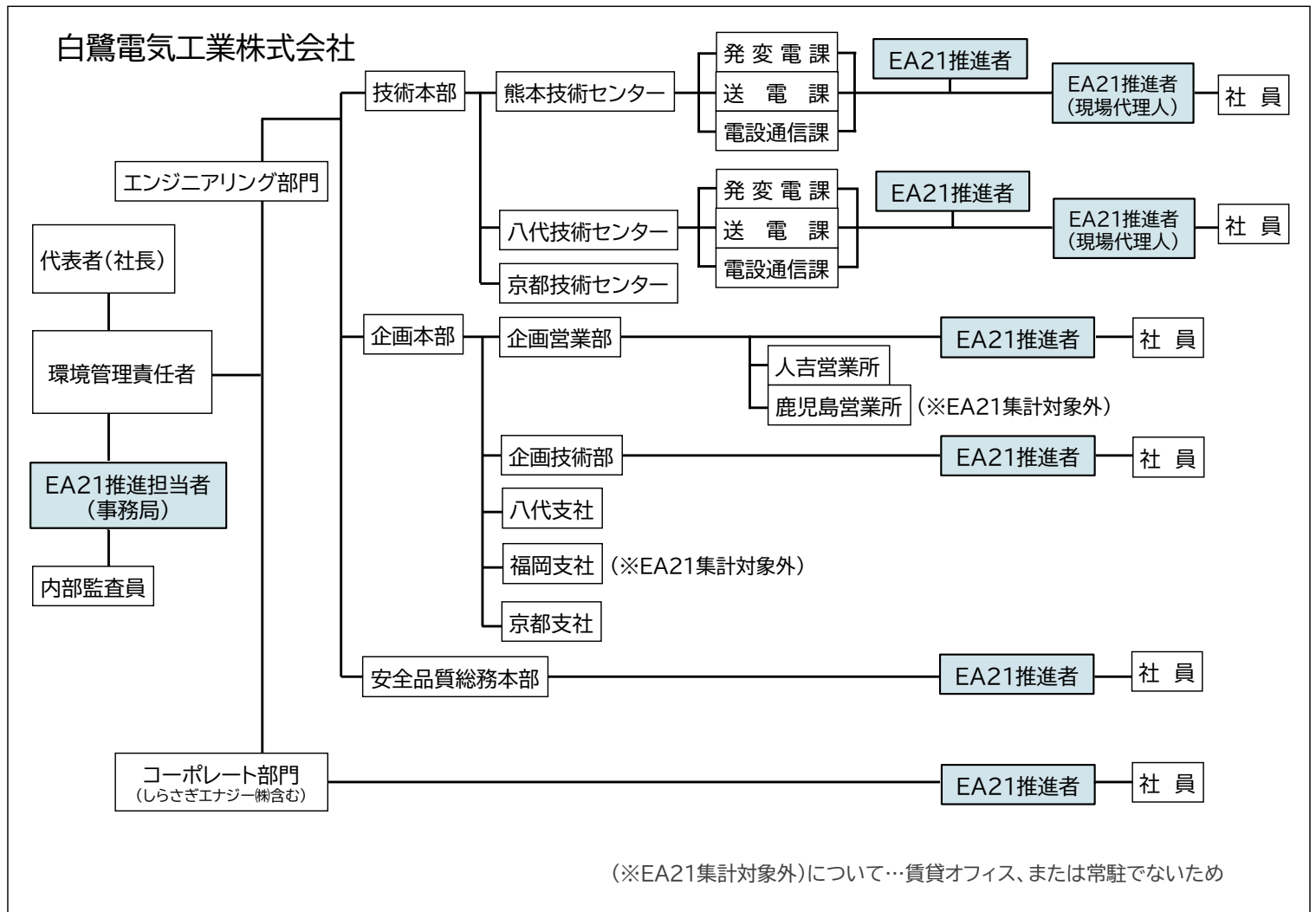
区分	項目	基準年 2021年 実績値	単位	3年間の目標		
				2022年目標	2023年目標	2024年目標
二酸化炭素 排出量	二酸化炭素総排出量	364,464	kg-CO ₂	▲1% 360,819	▲2% 357,175	▲3% 353,530
	電力の削減 (調整後排出係数)	167,678	kWh	▲1% 166,001	▲2% 164,324	▲3% 162,648
	ガソリンの削減	95,327	ℓ	▲1% 94,374	▲2% 93,420	▲3% 92,467
	軽油の削減	25,194	ℓ	▲1% 24,942	▲2% 24,690	▲3% 24,438
一般廃棄物 排出量	一般廃棄物削減	8,448	kg	▲1% 8,364	▲2% 8,279	▲3% 8,195
産業廃棄物 排出量	産業廃棄物削減	116,681	kg	▲1% 115,514	▲2% 114,347	▲3% 113,181
水使用量	水使用量の削減	218	m ³	▲1% 216	▲2% 214	▲3% 211
グリーン購入	グリーン購入の推進	1 (2021年度実績)	件	1種類追加 2	2種類追加 3	3種類追加 4
カーボンニュートラル 実現	電動車ヘシフト	13台(72%) (2021年度実績)	台	1台追加 14	2台追加 15	3台追加 16
環境に配慮した 事業活動	社会への啓発 活動の推進	2件/年	件	2件/年	2件/年	2件/年
化学物質の 管理	化学物質の 適切な管理	1回/四半期	回	1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期

(注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2022年度九州電力の調整後排出係数0.467kg-CO₂/kWhを使用する。
 2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿っての適切な取扱と管理の実施を行う。

(目標の設定)
 2021年実績から目標値を設定

(グリーン購入について)
 グリーン購入の調達判断としては「エコマークとグリーン購入法特定調達品目パンフレット」及び「公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局」のホームページにて「グリーン購入法品目」の検索機能を用いています。

環境経営方針		取組み事項	実施内容	SDGsの取組
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン、軽油等燃料使用状況・車両管理システムの利用率向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握 ・Mobility Passport導入による社用車稼働率の向上と記録用紙の削減	       
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、段階的なEV化移行 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等) ・ZEH-M社員寮の運用管理(V2H設置、カーシェアリング含む) ・八代支社 環境配慮型社屋への建て替え工事検討	
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動 ・森林水源涵養のための植林や下草刈り等の里山保全活動	
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・季節ごとのスケジュール機能見直し	
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用	
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・manifestoの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減	         
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能なように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用、印刷時の縮小化、両面印刷の推進 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与	
		グリーン調達	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間やCO ₂ 排出、エネルギー等の削減 ・e-ラーニングによる社員のSDGs教育・社内データの一元管理化 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体表温検知システム販売・現場支援システムを用いた業務の合理化 ・電気通信工事事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発・VR技術を用いた技術教育の構築	
2 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の厳格な在庫管理 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫、油倉庫の整理整頓	      
		環境法規制の遵守	・環境法規制の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する	
		ハザードマップ作成	・現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成し現場事務所に掲示	
		生物多様性に配慮した工法	・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する	
		災害時の備え BCP対策	・非常用電源の点検、災害対策本部の見直し、連絡体制の模擬訓練 ・長距離無線LANや安否確認システム等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの管理	
3 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自律運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスパトロール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施・防災訓練、環境教育の実施	       
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動	
		職場環境の向上	・働き方改革の推進 ・ワークライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・外国人の雇用 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・アルコールチェック義務化の対応・業務打合せ時間の見える化	
4 コミュニケーションの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	・食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターンシップや会社見学の受け入れ ・会社見学者の即時受付のための体制 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信・各種寄付活動	       



順位	主な責任と権限
代表者(社長)	環境経営方針の制定と、EA21環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 取組状況を評価し全般的な見直しの実施及び指示 環境活動への取組を適切に実行するための資源(人・物・金)の準備
環境管理責任者	代表者より委任を受け環境経営システム全体的な構築、運用、維持に関する責任と権限 環境経営計画の策定及び進捗管理を代表者へ報告 環境関連法規のとりまとめと評価及び環境経営レポートの確認と公表
EA21推進担当者(事務局)	環境経営における事務局としての環境管理責任者の補佐 環境活動における決定事項を社員全般への伝達及び環境活動記録の取りまとめ 環境上の外部コミュニケーション窓口 環境関連法規の取りまとめ及び環境経営レポートの作成、環境管理責任者への報告
EA21推進者	環境経営の事務所における記録と事務局への報告 事務所内におけるエコ活動の推進 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
EA21現場推進者(現場代理人)	環境経営の現場における記録と事務局への報告 現場内における緊急事態への対応訓練実施と記録及び事務局への報告 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
社員	環境経営方針、環境目標に沿った環境活動の展開 環境活動における改善点の提言

取組実績

取組期間／2022.4 ～ 2023.3

100%以上 ↑ 60%以上 → 60%未満 ↓

項目	基準年 (2021年実績)		2022年 対象期間			
			目標値▲1%	実績	達成度	
CO ₂ 総排出量(kg-CO ₂)	364,464		360,819	367,534	98%	→
電 気	使用量(kWh)	167,678	166,001	169,759	98%	→
	排出量(kg-CO ₂)	78,306	77,523	79,277		
ガソリン	使用量(ℓ)	95,327	94,374	85,367	111%	↑
	排出量(kg-CO ₂)	221,158	218,946	198,051		
軽 油	使用量(ℓ)	25,194	24,942	34,963	71%	→
	排出量(kg-CO ₂)	65,000	64,350	90,206		
水	使用量(m ³)	468	463	476	97%	→
一般廃棄物	排出量(kg)	8,448	8,364	8,266	101%	↑
産業廃棄物	排出量(kg)	116,681	115,514	410,190	28%	↓
	リサイクル率(%)	2021年度分から算出開始	—	96	96.3%	
グリーン購入	件数	1	2	10	500%	↑
電動車ヘシフト	台数	13	14	15	75%	→
	対象台数	対象台数18台	—	対象台数20台		
環境活動	件数	2件/年	2件/年	2件/年(※)	100%	↑
化学物質購入	購入量(ℓ)	1700	適切な管理	462	○	—

*数値目標は2021年実績を基準とし、1%削減を環境目標とした

*福岡・鹿児島支社は賃貸オフィス及び常駐でないため集計対象外とした

※環境に配慮した事業活動・・・コロナ禍以前は年4回のペースだったため、様子を見ながら徐々に戻す予定

2022年度の気付きとPoint

■全体的な数値について

目標値からすると達成率には届いていないものの、それぞれの項目に対しての取組みがあった為、工事稼働率から考えると大幅な増加もなく、会社全体できちんとした取組みが出来ていたと思う。

■グリーン購入について

今年度は会社で使用する備品関係を可能な限りグリーン購入にした為、高い達成率となった。また間接部門のみで取り組んでいたことを、水平展開していくため、エコアクション21推進委員会時にきちんと説明を行い、各現場でも実施してもらうような声掛けを行った。

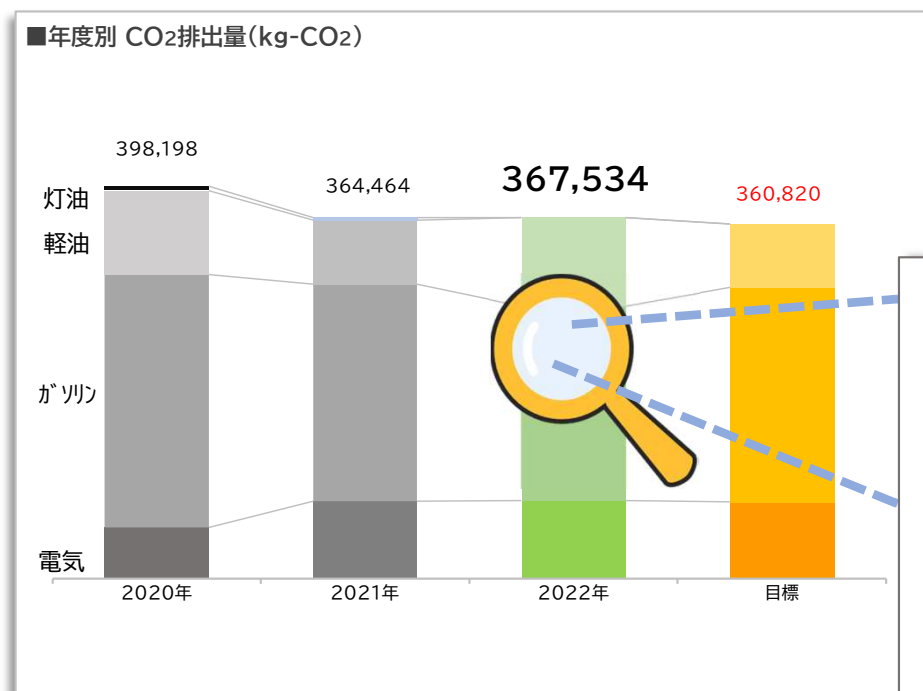
グリーン購入実績大幅UPの
立役者をご紹介します！

これをきっかけに、
もっとグリーン購入
への意識が高まって
欲しいですネ！



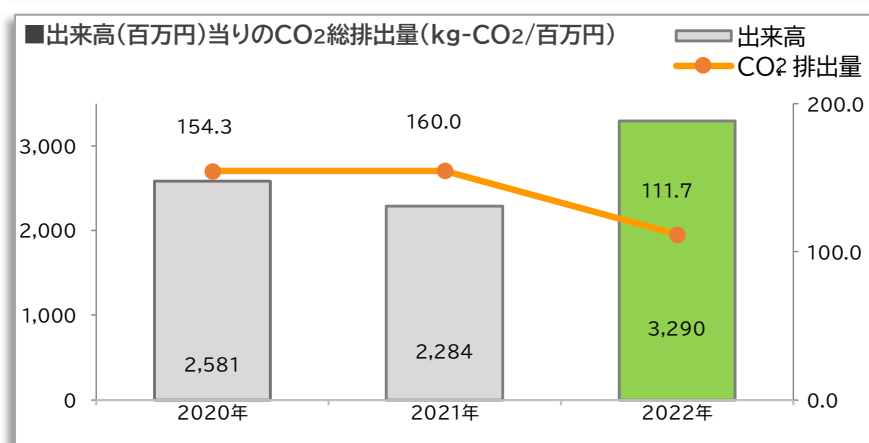
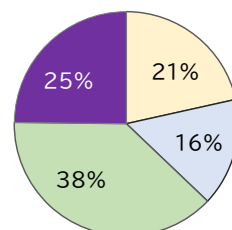
本社で使用する備品関係は、ほぼ全て経理課の井上主任が発注してくれます。その際にグリーン購入を心掛けた結果、大幅な実績UPへとつながりました。

二酸化炭素排出量/ガソリン使用量の削減



2022年 エネルギー使用量

- 電力
- ガソリン
- ガソリン(現場)
- 軽油



「見える化」にすることでエコ運転への意識改革

前年度と比較して、全体的な二酸化炭素排出量は増加したものの、ガソリン使用量は減っていました。2022年はテレワークでの働き方も少し減少し、出勤者が多かったことにより、全体的な排出量が増加したことが考えられます。ガソリン使用量の減少については、電動車へのシフトやアプリの活用、スマートコネクによるランキングレポートの活用が、二酸化炭素排出量削減への意識に繋がりました。



point



二酸化炭素排出量の削減に向けた取り組みの一つに、Mobility Passport(※)の活用があります。全社員が社有車を効率良く使用できるよう遊休車を「見える化」し、スマホから予約を行うことにより、一人一台という意識から、共用で使うという意識への変革ができました。

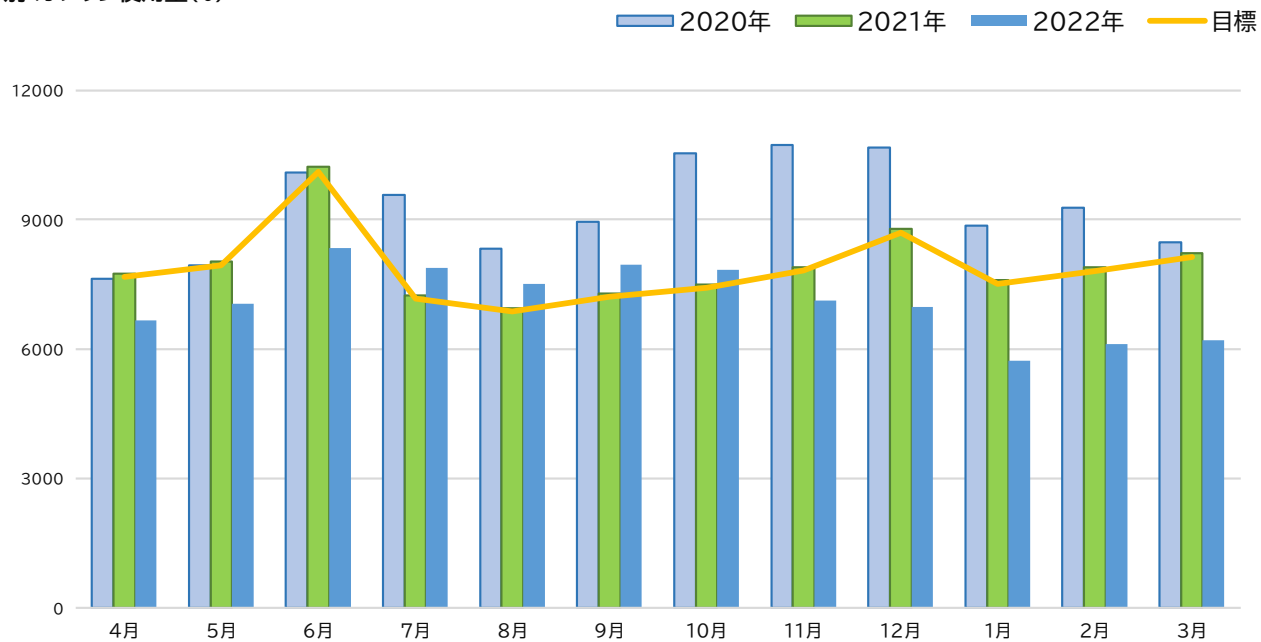
※ Mobility Passport …

住友三井オートサービス様アプリ

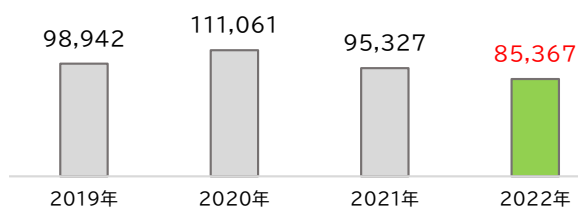


ほぼ全ての社有車にドライブレコーダーを設置し、ドライバーの運転を記録しています。そのデータを集計したものがランキングレポートとなり、全社員にランキングを「見える化」することで、安全運転とエコ運転につなげています。

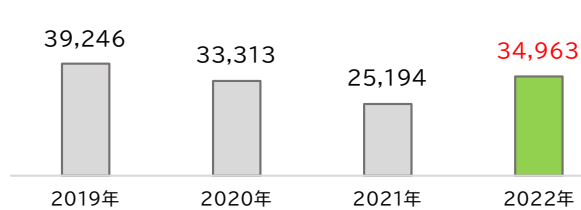
■月別 ガソリン使用量(ℓ)



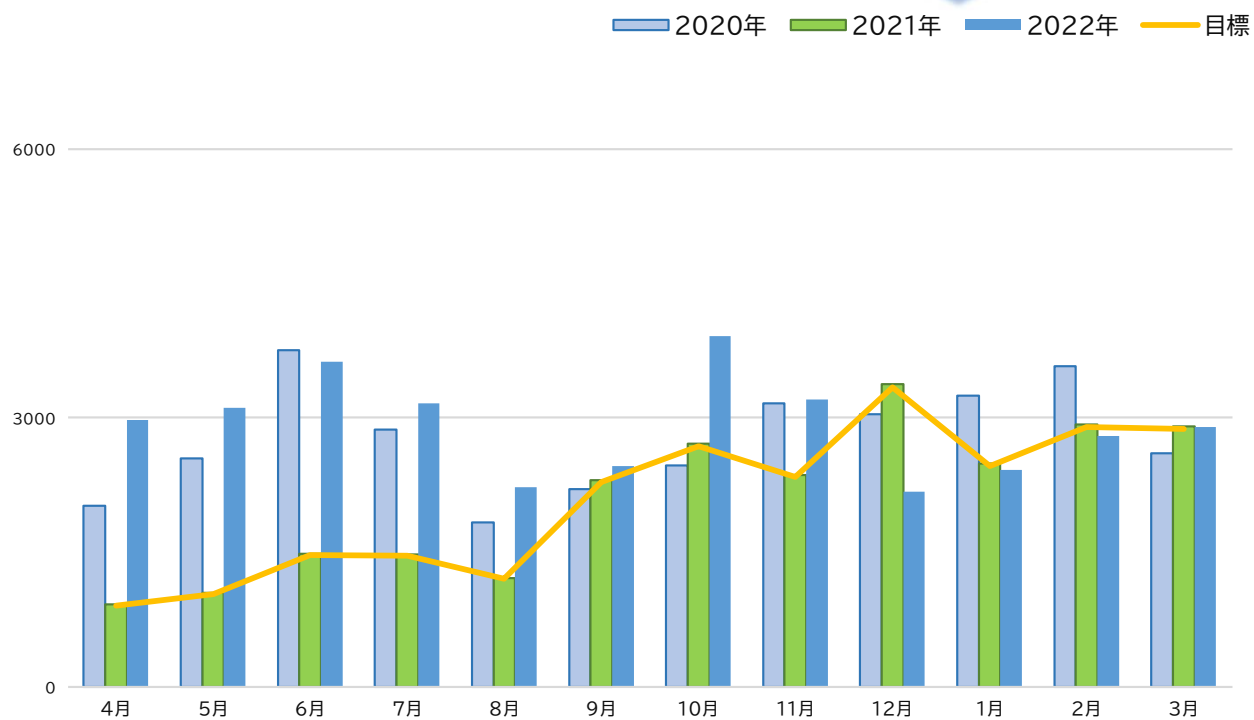
■年度別 ガソリン使用量(ℓ)



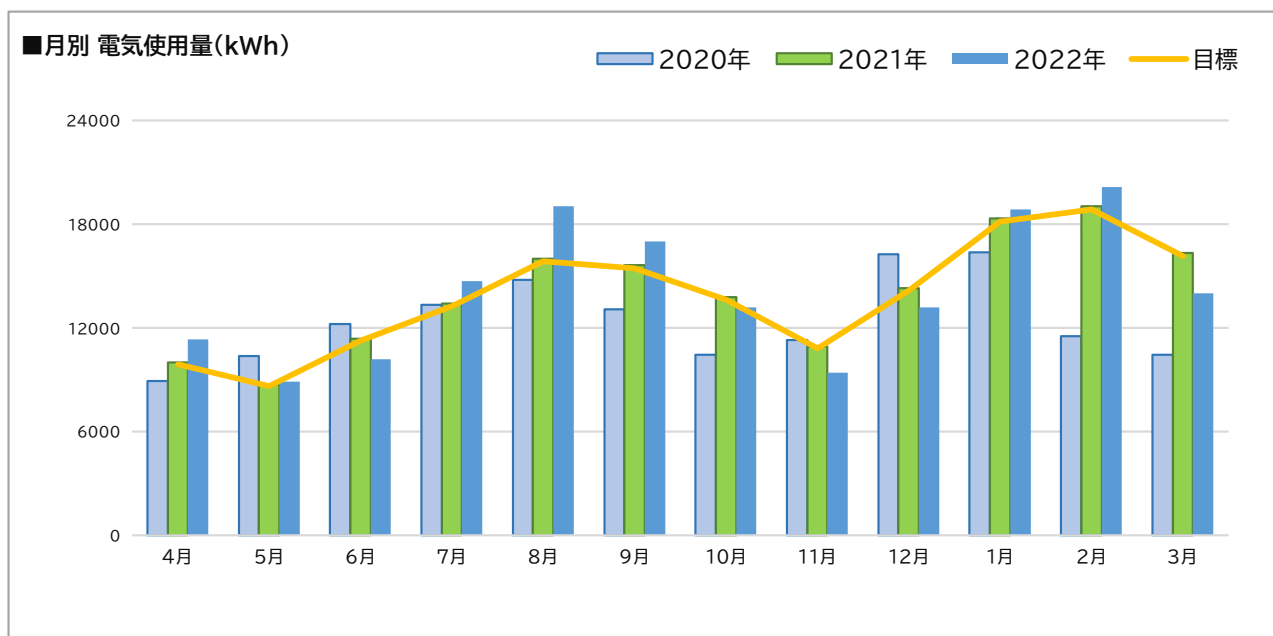
■年度別 軽油使用量(ℓ)



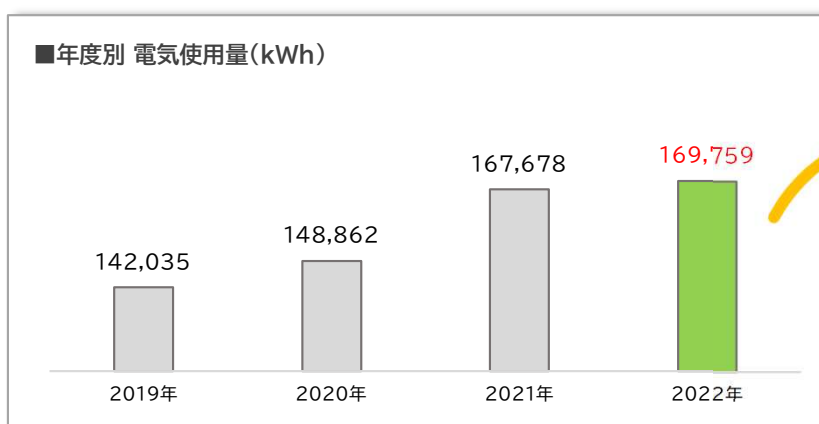
■月別 軽油使用量(ℓ)



電気使用量の削減



※ データ集計の対象は、本社社屋・八代支社社屋・倉庫・人吉支社・京都支社になります



主に使用している
電気って？



1位 空調

2位 照明



3位 その他

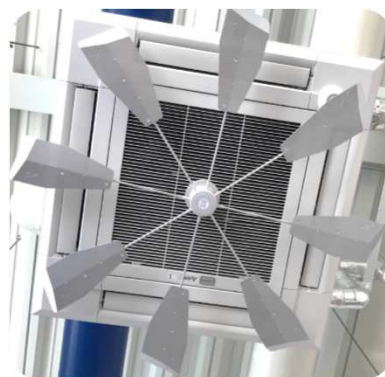


ハイブリッドファン導入で快適&省エネ！？

2022年は本社社屋にあるエアコンと支社のエアコン全てにハイブリッドファンの取付けを行いました。エアコンから出る風を攪拌させることで、室内の温度が快適になり、働きやすい職場環境づくりにもつながりました。自分たちの経験を会社訪問に来られたお客様にもご紹介し、皆様のお困りごとに応えていけるような販売事業も始めました。

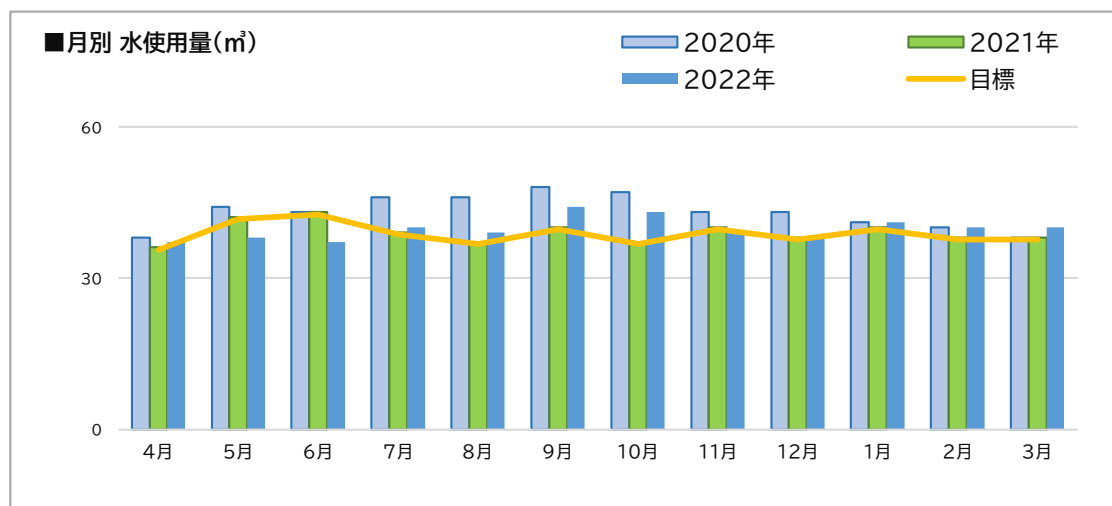


執務室に取付けたハイブリッドファン

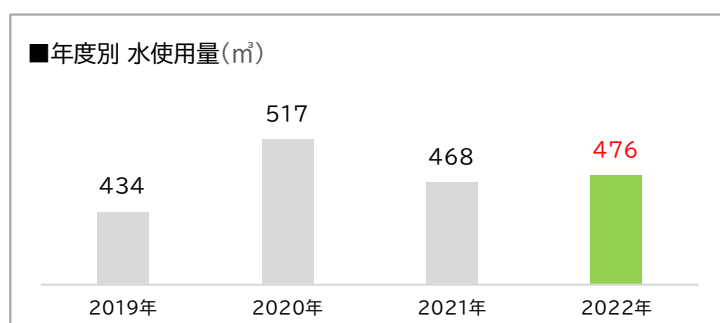


本社1F受付

水使用量の削減

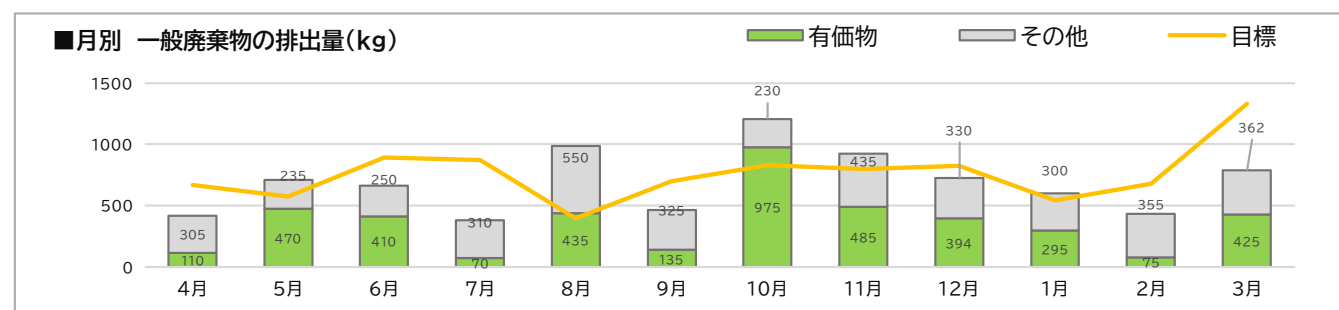


今後は取組みを強化！

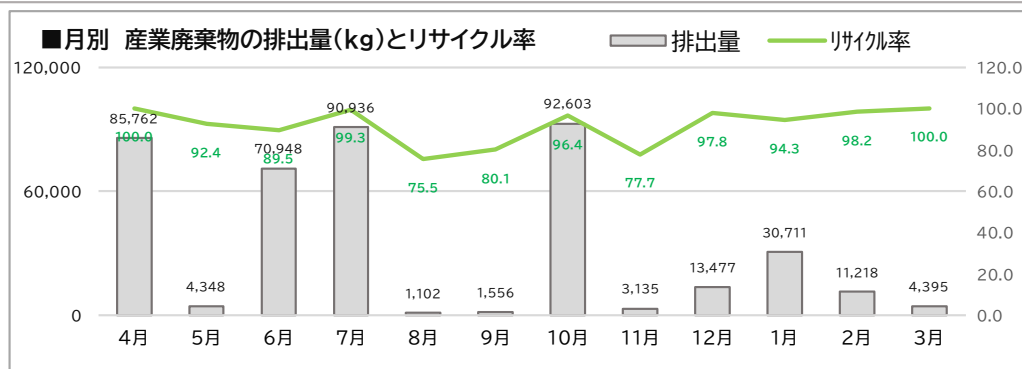


2022年は2021年より使用量は微増の結果となりました。出勤率もコロナ前とほぼ変わらなくなったため、感染症が再び流行しないように手洗い・うがいも引き続き励行しています。今後も社員ひとりひとりのこまめな節水を意識した取組みを積極的に行ってまいります。

産業廃棄物排出量の削減



集計方法の見直しを実施！



現場で出る廃棄物の数量を把握

今年度は、今まで本社社屋・本社倉庫・支社倉庫から出る産廃の量のみ集計していたものを、現場で出る産廃のデータも含めて数値の集計を行い、リサイクル率の算出を行いました。実際に全ての現場を把握することは難しかったのですが、エコアクション21推進委員会などで声掛けを行いながら実施しました。数値を出すことで実態が見えてきたので、来年は削減に向けた取組みを行っていきけるような体制づくりを目指します。

環境経営計画の評価

環境経営方針		取組み事項	実施内容	評価	SDGsの取組
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン、軽油等燃料使用状況・車両管理システムの利用率向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握 ・Mobility Passport導入による社用車稼働率の向上と記録用紙の削減	○	       
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、段階的なEV化移行 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等) ・ZEH-M社員寮の運用管理(V2H設置、カーシェアリング含む) ・八代支社 環境配慮型社屋への建て替え工事検討	○	
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動 ・森林水源涵養のための植林や下草刈り等の里山保全活動	△	
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の光センサー・季節ごとのスケジュール機能見直し	○	
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用	○	
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減	○	         
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能のように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用、印刷時の縮小化、両面印刷の推進 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与	○	
		グリーン調達の推進	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入	○	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間やCO ₂ 排出、エネルギー等の削減 ・e-ラーニングによる社員のSDGs教育・社内データの一元管理化 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体表面検知システム販売・現場支援システムを用いた業務の合理化 ・電気通信工事事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発・VR技術を用いた技術教育の構築	○	
		2 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	
環境法規制の遵守	・環境法規制の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する	○			
ハザードマップ作成	・現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成し現場事務所に掲示	○			
生物多様性に配慮した工法	・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する	○			
3 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自律運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスパトロール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施・防災訓練、環境教育の実施	○	       
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動	○	
		職場環境の向上	・働き方改革の推進 ・ワークライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・外国人の雇用 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・アルコールチェック義務化の対応・業務打合せ時間の見える化	○	
		4 シヨンの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	

本業を深め、広げる

～ 白鷺電気工業が取り組むSDGs ～

充電式発電機の使用



充電式発電機

従来の発電機と違い燃料(ガソリン、軽油)が不要で、発電機自体を充電しAC100Vを出力します。また騒音が気にならず、排気ガスも出ないというメリットがあります。

他にも・・・

工事で出た廃材を利用して、倉庫にある工具箱のプレートを手作りしました。整理整頓もできます。社員のアイデアからうまれた取組みの一つです。



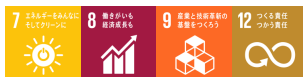
発電電課 桑田主任

使いやすく環境にも優しいし、何より充電できるのがgood!



八代支社の倉庫

ドローン活用



ドローンのことと、フルマラソンのことは私にお任せ！効率UPしたおかげで、趣味のランニングの時間も充実してます♪

送電課ではドローンを活用した延線作業を行っています。ドローンで引いた細いロープから段階的にロープを太くし、最後にアルミの電線を架線しています。以前はラジコンヘリを使用していたので、ドローンを使用することで燃料の使用もなく、更に作業効率のアップにつながりました。



送電課 赤崎部長

ドローン使用前の準備



ドローンを使用した作業時の様子

社内起業を促進する

～ 白鷺電気工業が取り組むSDGs ～

営業力を更にアップして、カーボニュートラルに繋がりたい！



企画営業部 井田副長

EV充電器販路拡大による脱炭素促進



EV充電器の導入提案や、販売・設置を行うことで脱炭素促進に努めています。EVを導入する企業様に対し、充電器や受電設備の改修工事から運用・保守点検までをワンストップで提供しています。



お客様の敷地に設置したEV充電器



ハイブリッドファンの導入と販売代理事業の立ち上げ



8枚のファンがエアコンから出る直接風をカットし、柔らかな風を拡散するハイブリッドファンを本社と支社に導入しました。電気代も不要で、環境経営に寄与できる商品として、販売代理事業も新たに立ち上げました。



取付作業の様子



ハイブリッドファン

EVバス事業



カーボンニュートラルの実現に向けて、グループ会社がEVバスを購入しました。EVバスの利用促進を図る目的で自治体や企業への貸し出しを行っています。EVバスは100%電気で走る、CO₂排出のない環境にやさしい乗り物です。



100%電気で走るEVバス

働き方改革を実現する

～ 白鷺電気工業が取り組むSDGs ～

吊り上げ装置の開発



自分たちで
作り出した
働き方改革
ダー!!



発電電課 本田部長

今まで配電盤吊り上げ作業に重量400kg以上では9～10人で作業を行っていましたが、この装置を開発したことで3人で作業できるようになりました。まさに働き方に直結する画期的な開発となりました。(※)

※全体の作業としては、玉掛・合図 監視者を考慮し、5名必要になります。



以前の作業

業務効率
UP!



吊り上げ装置使用時の様子

環境に配慮した省エネ最先端の社員寮



※「ZEH-M Ready」・・・再生可能エネルギー設備の導入により50%以上の一次エネルギー消費量削減を達成するマンション

2022年3月、創業の地である八代に大和リース様のご協力のもと、省エネ最先端の社員寮が完成しました。「ZEH-M Ready(ゼッチ・マンションレディ)」仕様の建物で、社有車である電動車の遊休時間を社員とシェアするもカーシェアリングも導入予定です。通常時は蓄電池として、停電時は電動車から共用部への給電や井戸水を汲み上げて給水し、非常災害時の事業継続の一助として活用する計画です。

熊本県内各地から雇用するという地元熊本に根差した象徴の社員寮で、脱炭素・カーボンニュートラルに貢献すると共に社員の福利厚生にも力を入れています。



屋上の太陽光発電パネル



寮に設置しているEV充電器

CARBON
NEUTRAL!



さらに地域とともに歩む

～ 白鷺電気工業が取り組むSDGs ～



NPOしらさぎの活動



2007年に「NPO法人しらさぎ」を設立し、熊本城・八代城跡の清掃ボランティア、南阿蘇村の森林保護活動、江津湖の水草除去など、自治体などと打ち合わせながら活動を続けています。参加者も徐々に増加し、発足から15年、開催数のべ65回・参加人数のべ6,900人を達成しました。

外国人の雇用



外国人の採用も積極的に行っています。

安全が第一で、現場では危険な作業もあるため、日本語が理解できないと現場での作業は難しくなります。そこで入社してから日本語教育にも力を入れています。今後も積極的に採用活動を行い、ダイバーシティの職場環境づくりを益々加速させたいと考えています。

電気について学びたいことが
まだまだいっぱい！日本語
(熊本弁！?)で、バリバリ
コミュニケーションとってます！



発変電課 タイン社員

好きな言葉：

「感謝」

好きな食べ物：

「焼肉」

企業様会社見学の受け入れ



2018年に竣工した本社工舎ビルは、高性能な省エネ設備と太陽光エネルギーの積極的な活用、オフィスビルでは日本初の直流配電+直流給電照明などの最新システムを導入し、正味で75%以上の省エネルギーを達成し、「Nearly ZEB」に認定されました。

ZEBリーディングオーナーとして、SDGsの取り組みも紹介しながら、会社見学の受け入れを行っています。



会社見学の様子

さらに地域とともに歩む ②

学生との交流(インターンシップ・校外学習の受け入れ)



地元の学生に向けた校外学習の様子

地元の学生を中心に、インターンシップや会社見学、校外学習の受け入れを積極的に行っています。企業が取組むSDGsの重要性についてや、ボランティア事例の紹介、ZEBの建物見学ツアーなどを通して、未来を担う学生たちに向けた、心に残る校外学習を目指しています！



絶滅危惧種ニホンメダカの飼育・寄贈



取引先企業様が取組んでおられた絶滅危惧種のニホンメダカの育成を2021年から協働で始めました。年々卵の数も増え、たくさんのメダカも産まれるようになりました。育てたメダカは地域の保育園や小学校に取引先企業様と一緒に寄贈し、子供たちに生物多様性の大切さを伝えていく活動となっています。



八代支社の水槽でメダカを飼育



小学校へ寄贈したときの様子

フードドライブ



フードドライブの食品を集めるBOXを作成

新たな取組みとして2022年から、フードドライブをはじめました。各家庭で余った食品を集め、フードバンクへ持ち込んでいます。最初は一つの部署のみで実施していましたが、今では会社でも家庭でもできるSDGsとして、全社的に行っています。



環境経営計画 2023.4~2024.3

環境経営方針		取組み事項	実施内容	SDGsの取組
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン、軽油等燃料使用状況・車両管理システムの利用率向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握 ・Mobility Passport導入による社用車稼働率の向上と記録用紙の削減	    
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、段階的なEV化移行 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等) ・ZEH-M社員寮の運用管理(V2H設置、カーシェアリング含む) ・ハイブリッドファンの取付及び販売業務の開始	
		地域環境活動NPOボランティア	・地域の観光地の水草除去や施設の清掃活動 ・森林水源涵養のための植林や下草刈り等の里山保全活動	
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・季節ごとのスケジュール機能見直し	
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用	
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減	   
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能なように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用、印刷時の縮小化、両面印刷の推進 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与	
		グリーン調達	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間やCO ₂ 排出、エネルギー等の削減 ・e-ラーニングによる社員のSDGs教育・社内データの一元管理 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体表温度検知システム販売・現場支援システムを用いた業務の合理化 ・電気通信工事事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発・VR技術を用いた技術教育の構築 ・ドライブレコーダーの活用によるエコ運転の推進	
2 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の厳格な在庫管理 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫、油倉庫の整理整頓	   
		環境法規制の遵守	・環境法規制の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する	
		ハザードマップ作成	・現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成し現場事務所に掲示	
		生物多様性に配慮した工法	・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する	
		災害時の備え BCP対策	・非常用電源の点検、災害対策本部の見直し、連絡体制の模擬訓練 ・長距離無線LANや安否確認システム等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの管理	
3 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自律運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスバトリール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施・防災訓練、環境教育の実施	   
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動	
		職場環境の向上	・働き方改革の推進 ・ワークライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・外国人の雇用 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・アルコールチェック義務化の対応・業務打合せ時間の見える化	
4 シヨンの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	・食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターンシップや会社見学の受け入れ ・会社見学者の即時受付のための体制 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信・各種寄付活動	   

環境関連法規への確認および評価、違反、訴訟

環境法規制の遵守活動を行い、その遵守状況の評価を行った結果、環境法規制への違反はありませんでした。
環境法規制の遵守活動を通して、関係当局より違反等の指摘はありませんでした。

法 規 制 等	遵 守 事 項(法規制/自主規制)	遵守評価
家電リサイクル法	・取引業者への適正な引き渡し(発生時のみ)	○
自動車リサイクル法	・取引業者への適正な引き渡し(発生時のみ)	○
フロン排出抑制法	・廃棄時の適正処置(発生時のみ)・処理委託書提出、処理報告書の受理 ・特定施設の自主点検の実施	○
建設リサイクル法	・工事に係る分別、再資源化の実施・再資源化完了の書面報告 ・対象工事の7日前までの市町村長への届出	○
騒音規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m) ・作業敷地境界にて85デシベル以下・空調機(本社・支社)の届出	○
振動規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m)・作業敷地境界にて75デシベル以下	○
廃棄物処理法	・産業廃棄物の保管 ・委託契約書(5年間保存) ・マニフェスト伝票管理(5年間保存)・産業廃棄物管理表交付、状況報告 ・産業廃棄物の運搬(運搬車への表示・マニフェスト伝票の携帯)	○
消防法	・市町村条例で定める(指定数量の1/5以上、指定数量未満の場合、あらかじめ届出)	○
建設汚泥の再生利用に関するガイドライン等	・適切な調査、設計、施工及び管理を行う・リサイクルの結果を確認し、記録を保存	—
オフロード法	・特定特殊自動車排出ガスの規制	—
悪臭防止法	・塗料等を使用する場合の作業量や時間帯の検討	—
道路法	・公共道路を使用する場合(道路管理者へ道路占用許可の申請)	○
道路交通法	・公共道路を使用する場合(管轄の警察署へ道路使用許可の申請)	○
水質汚濁防止法	・知事に60日前までに届出・測定を実施(記録の保存3年間)	○
下水道法	・公共下水道管理者にあらかじめ届出・生活環境項目については、条例による	○
毒物及び劇物取締法	・メチルその他化学物質の表示、保管	○
地下水保全条例(熊本県)	・ポンプ(本社)の届出(地下水採取の届出及び地下水涵養の取組み)	○
浄化槽法	・定期点検、法定点検の実施	○

(参考資料について)

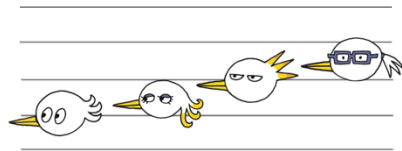
『環境LDB法令集〈建設工事編〉(監修 一般社団法人 日本建設業連合会)』を毎年更新し、社内でダウンロードして
使えるようにしています。

2050年の子どもたちのために 熊本から未来を変える。

エコアクション21の運用を始めておよそ10年の節目の年となりました。今までの経験則からではなく、内容に関して改めて理解を深めたうえで、今後は今までやってきたことをもう一度振り返りながら、新たなことへのチャレンジも含めて取り組んでいきたいと考えています。エコアクション21を運用する中で、当たり前と思ってやってきたことの見直しや改善を進めながら、時代の変化を意識した内容の見直しも、今後は必要なことのひとつだと考えています。そして今まで以上に、現場作業の中でもより取り組みやすいシステムの運用を目指し、改めてその意義を再確認していくことが大切だと感じています。また今後は安全に関するシステムと同じような取り組み部分の洗い出しなどを行い、できることは一本化していくことも必要なことだと感じています。部門を超えて社員全員で協力しながら、今後更により良いシステムの運用を目指します。

環境に対する社会的欲求が年々高まりつつある今、それに応えていけるような活動を今後も続けてまいります。

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田 幸広



SHIRASAGI